

IV-209 道路安全監査に向けたドライバー情報の活用に関する基礎的研究

大同工業大学 学生員 山下 聖真

大同工業大学 正会員 舟渡 悦夫

大同工業大学 正会員 嶋田 喜昭

1. はじめに

今日でも交通事故は依然として深刻な社会問題であり、交通事故の削減に向けて新たな対応が求められている。

過去、我が国の交通安全対策は主として公安委員会、道路管理者によって行なわれており、両行政機関の永年の努力によって安全性が向上したことは事実である。しかしながら、より一層の安全水準の向上を目指すためには、既存対策のみでは不十分と考えられる。

そこで、本研究では、交通事故の効果的な削減対策として、イギリス等で実施されている道路安全監査（Road Safety Audit）制度に着目し、実際に道路を利用しているドライバーからの情報を有効に活用することを提案したい。具体的には、さまざまな年齢層、職業のドライバーが、交通安全と道路環境に対してどのような考えを持っているかをアンケートにより調査し、道路安全監査に対してどのような情報を提供できるかについて分析することにした。

2. アンケート調査の概要

- ① 調査対象：一般ドライバーとして、初心者、高齢者、免許を取得してある程度の期間が経過した人（一般）、建設会社従業員（A社、設計担当）、JAFの従業員を選んだ。さらに、職業ドライバーとして、大型車、タクシー、バス、緊急車両（パトカー、救急車）のドライバーを選定した。
- ② 調査期間と回収数：調査は平成10年11月～平成11年3月に実施した。また、回収数は表-3に示すとおりである。
- ③ アンケートの内容：監査に対する積極性と適性を判断する為に、「交通安全意識」、「危険交差点の抽出」「日常運転の習慣」等をたずねた。アンケートの内容は表-1に示すとおりであり、表-2に「A. 交通安全意識」の詳細を示した。

表-1 アンケートの分類と内容

分類	内容
A. 交通安全意識	交通安全・交通法規に対する考え方、監査に対する積極性
B. 危険交差点の抽出	危険な交差点に関する具体的情報と対策
C. 日常（業務中）運転	日常あるいは業務中の運転意識・マナー
D. 個人属性	年齢、性別、免許取得年数、車の利用頻度と利用目的

表-2 交通安全意識の質問項目

No	質問項目
①	現在の交通法規改正により、交通の安全・円滑化が進むか
②	どのような人に交通安全教育の強化をすべきか
③	交通改善に反映される制度があるとしたら、積極的に意見を述べるか
④	他の人よりも、交通情報を取り入れているか
⑤	他車に進路を譲ってもらった時に合図を送るか
⑥	運転しにくいと感じる道路が多いと思うか
⑦	危険で改善すべき交差点は多いと思うか
⑧	道路の改善で事故は減ると思うか
⑨	どのような交差点が危険だと思うか

3. アンケート調査の結果と分析

ここでは、交通安全意識と危険交差点の抽出の記入状況等についての結果を示す。

(1) 交通法規改正による交通の安全・円滑化

『交通法規の改正によって交通の安全・円滑化が図られるか』という問いに対する回答では、平均で「非常に図られる」が15%、「少しは図られる」が56%、「図られない」が29%であった。また、調査対象別での差はあまり見られなかった。

(2) 交通改善反映制度に対する積極性

図-1は『交通改善への反映制度があった場合に、積極的に意見を述べるか』という問いに対する回答を示したものであり、平均すると「聞かれたら述べる」という受動的な意見が多い。しかし、バス・JAF・タクシー・パトカーのドライバーで「自分から述べる」という意見が多く、積極性がうかがえる。

(3) 交通情報の取り入れ度

キーワード：道路安全監査，アンケート，ドライバー，危険交差点

連絡先：〒457-8790 名古屋市南区白水町40 Tel：052-612-5571 Fax：052-612-5953

『他の人よりも、交通情報を取り入れているか』という問いで「他の人より多い」の割合をみると、初心者・高齢者・一般が13～18%、A社・救急車が21～25%、J A F・タクシーが34～38%、大型車・バス・パトカーが44～48%であった。したがって、大型車・パトカー・バス・タクシー・J A Fのドライバーは交通情報の取入れ度が多く、大型車を除き交通改善反映制度への積極性が高いドライバーの結果と一致する。よって、交通改善への積極性が高いドライバーは交通情報に敏感であることが分かった。

（4）既存道路と交差点に対する評価

『運転しにくいと感じる道路が多いか』という問いに対する回答では、平均で45%の人が「多い」という意見であった。また、『危険で改善すべき交差点は多いか』という問いに対する回答は、図-2に示すように、大型車やバスのドライバーが「多い」という意見が高く、平均でも66%が「多い」と回答している。次に、『どのような交差点が危険だと思うか』という問いに対する回答では、「変形交差点」が29%、「信号が見づらい」が18%、「道幅が狭い」と「案内標識がわかりにくい」が13%、「多車線の大きな交差点」が12%、「路面標識がわかりにくい」が11%、「その他」が4%という結果であった。

（5）道路改善による事故防止の可能性

『道路の改善によって事故は減ると思うか』という問いに対する回答では、平均で「減る」が59%、「どちらともいえない」が28%、「減らない」が14%であり、道路改善の必要性を確認できた。

（6）危険交差点の記入率とその評価

表-3は危険交差点の記入率とその評価を示したものである。内容の評価は、回答者の記述内容を筆者らが独自に評価したものに基いている（A：良い B：普通 C：悪いと三段階で評価した）。全体の記入率は65%と高い値であり、J A F・パトカー・タクシー・バスのドライバーは76%以上となっている。また、記入率が高いドライバーは記入内容の質も高く、これらのドライバーは、交通改善反映制度に対する積極性や交通情報の取入れ度が高いドライバーと一致している。したがって、これらのドライバーは道路安全監査に対して、有効な情報を提供できる体験とアイデアを有しているものと推察できる。

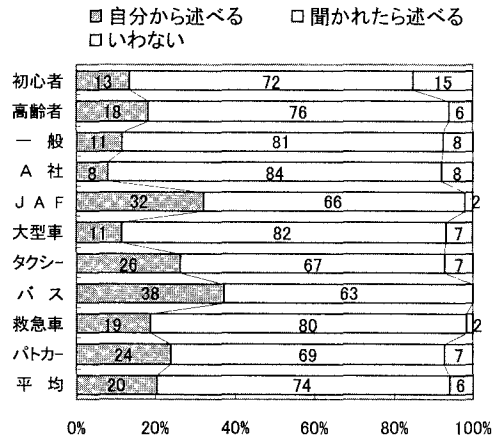


図-1 交通改善反映制度に対する積極性

□よくあてはまる □まああてはまる
□どちらともいえない □あまりあてはまらない
□まったくあてはまらない

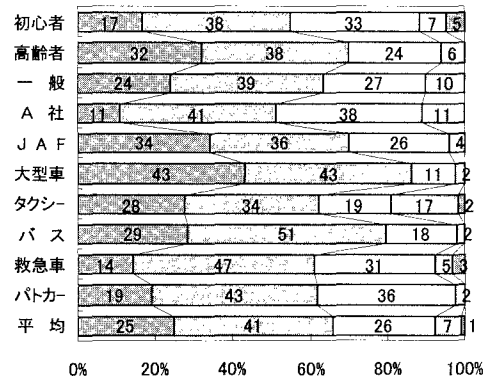


図-2 「危険で改善すべき交差点は多い」

表-3 危険交差点の記入率とその評価

調査対象者	回収数	記入者数	記入率	交差点指摘数				内容の評価		
				1	2	3	合計	A	B	C
初心者	60	35	58%	32	3	0	38	16%	50%	34%
高齢者	50	24	48%	23	1	0	25	16%	60%	24%
一般	79	35	44%	35	0	0	35	14%	49%	37%
A社	38	25	66%	25	0	0	25	56%	36%	8%
J A F	50	46	92%	32	8	6	66	52%	47%	2%
大型車	43	9	21%	8	1	0	10	20%	60%	20%
タクシー	59	52	88%	30	5	17	91	58%	42%	0%
バス	49	37	76%	29	5	3	48	54%	44%	2%
救急車	64	44	69%	22	14	8	74	68%	30%	3%
パトカー	42	38	90%	36	2	0	40	65%	30%	5%
合計	534	345	65%	272	39	34	452			

【参考文献】

- 1) 西村 昂：道路安全監査の思想，交通科学 Vol.1, 26, No.159'63 (1997)
- 2) 瀬尾 卓也，山川 俊幸，田中 直樹：“Road Safety Audit”について，交通工学 Vol.32, No.297~107(1997)